

銅・アルミレポート

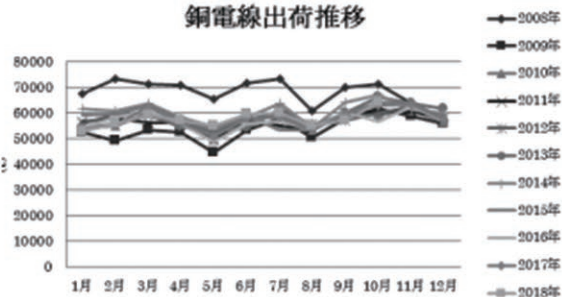
橋本アルミ株式会社取締役
橋本 健一郎

11月の銅の概況及び12月の見通し (3)

日本電線工業会発表の出荷速報 (推定)

銅電線出荷量は、前年比+2.6%の6万4,300 tであった。

銅電線出荷推移



出典 日本電線工業会

■国内概況まとめ

【自動車】

9月の自動車生産台数は前年比-5.3%の80万9,884台であった。輸出は42万7,073台で前年同月比+3.8%。

【販売】

日本自動車販売協会連合会によると11月の自動車販売台数(軽除く)は前年比+8.3%の27万9,594台。内乗用車+8%、貨物+10%、バス+13.1%。

【住宅】

平成30年10月の住宅着工戸数は83,330戸で、前年同月比で0.3%増となった。また、季節調整済年率換算値では95.0万戸(前月比0.8%増)となった。

住宅着工の動向については、前年同月比で先月の減少から再びの増加となっており、利用関係別にみると、前年同月比で持家、分譲住宅は増、貸家は減となった。引き続き、今後の動向をしっかりと注視していく必要がある。

【伸銅品生産】

伸銅品生産は、前年比+2.7%の7万3,400 t、5か月ぶり増加。好調要因は自動車向け需要だが、もう一方の好調だった半導体向けに陰りが見えてきた。

内需、6万612 t +2%、5か月ぶりプラス
輸出、1万2,788 t +6.3%、5か月ぶりプラス
銅条、2万4,371 t +3.5%、5か月ぶりプラス
黄銅棒、1万6,002 t -4.1%、2か月連続マイナス

【電線】

前年比+2.6%の6万4,300 t。うち国内+4.6%、輸出が-48.3%、通信+1.5%、電力-1.8%、電気機械+0.1%、自動車0+6.2%、建設電販+6.6%、その他内需+4.6%

【輸出】

電気銅輸出が+36.3%の4万6,495 t。銅スクラップが14.4%の3万997 t。

【輸入】

電気銅が+163.3%の3,809 t。スクラップが+27.9%の1万2,494 t。

【見通し】

自動車は生産が-5.3%。国内販売台数が前年比+8.3%。生産は4か月連続マイナス。ただ販売が大幅に拡大しておりこれが続くかどうか今後注目。

住宅着工の動向については、前年同月比で0.3%増となった。また、季節調整済年率換算値では95.0万戸(前月比0.8%増)となった。今後プラス傾向が続くのか今後の動向に注目。

伸銅品は、5か月ぶり増加、前年比+2.7%。

需要の多い銅条5か月ぶりプラス、黄銅棒は2か月連続マイナス、輸出5か月連続振りプラス。今後再びプラスが続くか注目。

電線は、前年比+2.6%の6万4,300 t。輸出が-48.3%。需要の多い自動車、建設電販がそれぞれ+6.2%、+6.6%。

銅輸出は、地金、スクラップとも増加!円安を受けて。銅輸入は好調な生産を背景に増加。

【スクラップ景況予想】

流通在庫は月初の建値72万から75万まで回復。ここ最近の平均建値まで回復してきてることから要因から出てくるのではないかと?

需要面に関しては足元の生産状況回復傾向。

購入意欲は高くはないが慢性的な原料不足で品費の良いスクラップは需要がある。年末に向けての狼狽売りも考えられ需給は緩むのでは?

【LME・為替予想】

今月は米中貿易戦争の動向と朝鮮半島問題に左右される。米中間選挙に関しては先のG20で中国からの輸入品の関税を来年1月に引き上げる制裁措置を一時、(90日)見送ることを発表、代わりに中国は、貿易の不均衡を是正するため、アメリカから農産物やエネルギー、それに工業製品などを買い入れることで合意するなど中国側に軟化が見られることから90日以内に合意するのではないかと?

朝鮮半島問題に関しては非核化実行なら「金委員長の見込みかえり」と文大統領に伝言しており、金委員長との2回目の首脳会談を来年1月か2月にも開きたいとの意向を示していることからこちらも前進するのではないかと?

これらを踏まえた12月の銅価格は、米中貿易戦争でアメリカに有利に進展し、朝鮮半島問題で非核化に向けた動きが出た場合場合6,400ドル付近。両条件が揃わなかった場合現状からもう一段安の6,000ドル付近まで下落するとの予想。

ドル円値は112円~114円(TTM)台を予測。銅建値に関しては720-770円程度と予測している。

【「11月の銅の概況及び12月の見通し」終了】